

2016年(平成28年)12月1日 木曜日 (4)

ガラスとプラ複合の新素材使用 バリ取りブラシ開発

イハラ合成

合成樹脂原料のリサイクルと技術開発を手がける、イハラ合成(本社名古屋市中区和区白金、伊原歳博会長、電話052・882・1838)は、ガラス繊維をプラスチックに混ぜた複合原料の線材で、素材加工時に発生する突起物(バリ)を取る「バリ取りブラシ」を試作した。来春をめどに、同社直販サイトや工具商社を通じて発売する計画。自動車部品メーカーや、金属加工業者などに提案する。初年度は3万本の販売を目指している。

(水谷英志)



開発したバリ取りブラシの試作品



伊原歳博会長

「バリ取りブラシ」は、自社開発した線材を応用した初めての製品。3年半前に、中部生産性本部の「革新的製品創出サロン」で知り合った企業経営者のリクエストにこたえて開発した。特許も出願している。試作品は長さ11センチ、直径

バリ取りブラシ開発

1・1センチ。重さ5グラム。ブラシ部分に線材を使用している。既存製品よりも、加工物を削らずにバリを取るこ

とができる。

また同社は、愛知県から交付された「新あいち創造研究開発補助金」1430万円を活用し、あいち産業

異業種交流展「メッセナゴヤ」や展示商談会「テックピス」などに出品して、大きな反響があったという。すでに協力工場へ量産を依頼している。

科学技術総合センター(刈谷市)内に試作品開発機を設置した。現在は炭素繊維を含有した繊維の開発も進めており、同ブラシの商品化を契機に業谷拡大と新製品開発を推進する。

現在、ブラシの芯は鉄製だが「全て樹脂化すれば、さらに軽量化が実現する」(伊原会長)としており、取引先の多様なニーズに応

えしていく方針。

同社は1975年創業。資本金は1000万円。従業員数は14人(パート・アルバイトを含む)。